

政権交代の揺れ戻しは、当分続くだろうなあ～

今回の衆議院総選挙に関連して、当 HP に 2 件の記事を掲載していた（HP「雑学 BN」の随想等関係（X）、2012.11.22.「国会ごっこ遊び???'」、2012.12.09.「特別職の知事、市長は、なぜ選挙活動は OK なの?」：参照）。

3 年前の自由民主党から民主党の政権交代の時に「揺れ戻しがあるだろう（HP「雑学 BN」の随想等関係（VII）（2009.09.01.「今回の政権交代に、『ノーの保障』を連想する」：参照）」と予想した通り、今日の総選挙で民主党から自民民主党への政権交代。

今回の揺れ戻し巾は予想以上に大きいので、また何年か先には揺れ戻しがあるのだろうなあ～。

何回かこうした揺れ戻しを国民が経験する中で揺れ戻し巾が徐々に狭まり、どの政党がどうなるか分からないが日本が二大政党制の成熟した、時には政権交代がある真の安定した民主国家になるには、まだまだ時間がかかるのだろうなあ～。

また、昨日の総選挙の投票率は約 59%ということは、棄権率は約 40%。

約 59%は戦後最低の投票率であり、現在社会の「他人任せ」の世相の反映と言っているものだろうか。

「主権は国民にある」のにその主権を行使せず、「『国は何にもしてくれない!』なんて言うなよ!」と言いたくなる。

「棄権も一つの意志表示だ!」という人もいるだろうが、支持する政党、選びたい候補者がいないなら、白票を投じればいい。

今回は白票を含め無効票は、過去最高の 204 万票あったとの報道。

こうして報道されてこそ、国民の意志表示の一側面として報道されるというもの。

ケネディーは大統領就任演説で、「あなたの国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるのかを問うて欲しい」と国民に語りかけた、民主国家の根源的意味を棄権した人は反芻して欲しい。

まして、3 年前、そして今回と、自分たちの一票が政権交代を促すこともあることが分かっただけに、大事に主権を行使して欲しい。